

社会部会 研究の構想（案）

平成31年度～

I 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるには、どのようにすればよいか。

II 主題設定の趣旨

現在、生徒を取りまく情勢は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間のない技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。このような時代の中では、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。そこで、社会科においては、「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質や能力を育成することが求められている。

そのためには「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を提示し、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の習得に努めるとともに、それらを活用したり、主体的に課題を追究したりするための思考力・判断力・表現力等を身に付ける必要がある。このような観点から、習得すべき知識及び技能の明確化を図るとともに、指導と評価の一体化に配慮した学習過程と評価方法、思考力・判断力・表現力等を育てるための教材開発や学習活動の工夫・改善を図っていく。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえ、地理的分野、歴史的分野、公民的分野を有機的に関連させながら、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を図る。
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を明確にし、評価方法を工夫・改善することで、指導と評価の一体化を図り、指導改善に生かす。
- (3) 主体的・対話的な学びの充実により、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成する。

2 研究内容

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえながら、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、見通しをもった指導計画を作成する。
- (2) 単元全体の学習課題や基礎的・基本的な知識及び技能を明確にし、指導と評価の一体化を図る。S-P表等を活用した学力調査の分析結果についての情報交換を行い、全体の傾向を把握するとともに、今後の指導や評価問題の改善に生かす。
- (3) 社会の変化に対応し、主体的に学ぶ意欲や態度を育成するため、課題の設定や教材開発について工夫・改善を図る。
- (4) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、思考力・判断力・表現力等を育てる学習活動の工夫・改善を図る。

社会部会 令和2年度研究計画(案)

I 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるには、どのようにすればよいか。

－思考力・判断力・表現力等を育てるための教材開発や学習活動はどうあればよいか－

II 主題について

今日の我が国は、震災からの復興に加え、少子高齢社会と財政の健全化、再生可能なエネルギーの開発等、様々な分野において課題を抱えている。また、グローバル化が急速に進む中、貿易や安全保障等の在り方も新たな展開をむかえようとしている。社会科においては、変化の激しいこれからの社会を生き抜くことができるよう、「社会的な見方・考え方」を働かせ、社会的事象を主体的に追究する生徒の育成がより一層求められる。そのためには、「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を充実させることで、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力・判断力・表現力等を育み、主権者として持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を養うことが必要である。

そこで、本年度は、各分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開されるように学習を設計することを重視する。そのために、習得した知識及び技能を活用する学習を取り入れるなど、思考力・判断力・表現力等を育てるための有効な教材開発や学習活動について研究を深め、主題の解明に迫りたい。

III 研究内容とその視点

1 指導計画の工夫

- (1) 小学校社会科の学習を踏まえながら、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、地理的分野と歴史的分野の学習の基礎の上に公民的分野の学習を展開するという教科の基本的な構造と相互補完の関係を考慮し、見通しをもった指導計画を作成する。
- (2) 構造的な指導計画を作成するなど、単元全体で身に付けるべき基礎的・基本的な知識及び技能を明確にする。

2 指導と評価の一体化

- (1) 評価問題やワークシート等、基礎的・基本的な知識及び技能が身に付いたかどうかを捉えるための評価方法の工夫・改善を図る。
- (2) 評価を通して捉えた生徒の実態を基に、指導の工夫・改善を行うことで、指導と評価の一体化を図る。
- (3) S-P表等を活用した学力調査の分析結果についての情報交換を行い、全体の傾向を把握するとともに、今後の指導や評価問題の改善に生かす。

3 課題の設定や教材開発の工夫

- (1) 生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりすることができるように、課題（問い）の設定を工夫する。
- (2) 主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、社会的事象の特色や意味等について比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力を育成するために、教材の開発やその構成を工夫する。

4 学習活動の工夫

- (1) 各分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開されるように学習を設計する。
- (2) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育成するため、思考力・判断力・表現力等を育てる学習活動を充実する。
 - ・複数の資料を分類、比較、関連付けて考えさせる学習活動を繰り返し行う。
 - ・課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できるように学習活動の工夫を行う。
 - ・自分の考えを論理的に説明する力や自分の考えを再構成しながら議論する力を養うために、学習したことを活用する場面を設定し、生徒の表現を促すようにする。

5 各分野における「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力・判断力・表現力等」の育成

「社会的な見方・考え方」については、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。

- …見方・考え方の視点や方法
- ◇…思考力・判断力・表現力等を育むための視点や方法

<地理的分野>

- 社会的な事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域の枠組みの中で、人間の営みと関連付けて考えさせる。
- ◇ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域等に着目して多面的・多角的に考察する学習活動を充実させる。

<歴史的分野>

- 社会的な事象を時期、推移等に着目して捉え、類似や差異等を明確にし、事象同士を因果関係等で関連付けて考えさせる。
- ◇ 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色や、事象相互の関連を多面的・多角的に考察する学習活動を充実させる。

<公民的分野>

- 社会的な事象を政治、法、経済等に関わる多様な視点（概念や理論等）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論等と関連付けて考えさせる。
- ◇ 社会的な事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代社会の生活と関連付けて多面的・多角的に考察する学習活動を充実させる。

IV 研究方法

- 1 実践に当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえて、各郡市・地区の実情に応じて上記の研究内容とその視点を基に研究に取り組む。
- 2 各郡市・地区ごとに、授業を進める上での悩みや課題について、実践事例研究や講習会等を通して共通理解を図り、解決に努める。研究授業と研究発表に当たっては、研究内容とその視点を基に、各郡市・地区の実情に応じた研修（協議会、ワークショップ等）に努め、研究を深める。
- 3 学力調査の結果について、S-P表等を活用して指導と評価問題の改善に生かす。

